

神戸を豊かにしよう

山口 泰弘

神戸つ子放談



(地元を大切にしようと語る山口泰弘氏)

諏訪山・錨山は神戸の一つの象徴のようなものだ。
港の波止場から山を振り向けばこの山がなだらかに街に

流れているし、点在する洋館の屋根が何とも云えないエ
キゾチックな感じを添える。
神戸に初めて来た人を諏訪山に連れて行くと、殆んど
の人がしばし茫然として箱庭のような神戸の街を飽かず
に眺めている。

山口泰弘さんの家はこの諏訪山の中腹の洋館なのだそ

うだ。

「私は、京都っ子なんですがね。神戸ほどいいところはありませんよ」といろいろと熱心に話された。

神戸の生活は最高の環境

神戸の諏訪山からの眺めはね、とにかく飽きることのない美しいものですよ。四季、春夏秋冬——もちろん趣が違っていてね。朝、昼、夜とそれぞれ、その日の天候に従って景色が変る。波風の激しいとき、静かな月夜、もやにつつまれた朝と——私は神戸の美しさを毎日満喫しています。こんな風光明媚なところってほかにありませんよそれにね、食べ物がうまい、気候もいい、文化程度も高くて、私生活の天国なんですね。

東京と軽井沢——それに神戸と六甲と比較しても、六甲の方が数段すぐれているでしょう。

山口 畫伯と呼ばれた頃

「京都っ子」だというのは、京都で生れ、小学校から大学まで京都なのでね。同志社を卒業して、第一銀行の京都支店に入社したのがふり出しなんですよ。その頃から画が好きで、津田青楓（二科）に師事して、よく描きましたよ……。

津田青楓は、日本画家なんですが、河上肇に私淑し始めた頃から洋画もやるようになつたんです。その青楓師が愛人と二人で、東山の鹿ヶ谷に住んでいて塾をひらいていたんだす。私はその第一回の塾生なんですよ。「宮谷川忠麿、近藤悠二」などと一緒にしてね。当時は画家・山口としての方が有名たつたんですよ。だから趣味は大切にする方ですよ。

しかし、趣味は一人で楽しみたいという性分なので、画をやっていても、描くことを義務づけられるのは弱いんです。しかし、旅行にでもスケッチなど出来るのは楽しいものですよ。

大企業も地元と遊離してはのひない……

京都から東京、横浜などにいて、戦後、川崎重工に勤めるようになって、神戸に来たんです。

「川崎電機」というのは、川重の電気部が、一昨年独立

して出来たんで、車輛用・船舶用などの重電機の製造をしているんですよ。早く神戸っ子の皆さんにも馴染んでいただきたいと思っています。

幸い、いまは私も「神戸っ子」として、神戸の地元の方とは、親しくしていただいているんですが、どんな大会社でも地元と離れてしまつてはのびませんよ。地元会社も大会社も緊密な連絡を保つて、一つの経済環境をととのえることが大切なんですよ……。それが神戸経済圏が良くなるということなんですよ。

裏六甲にハイ・ウェイを……

先日、NHKの「朝のことば」で話したことなんですが、六甲を裏から、開発してほしいと思いますよ。裏六甲にハイ・ウェイを通して、姫路・西播までの路線を設ければ、六甲山は、そつくりそのまま、神戸市の中央・緑地帯になりますしね。大関西経済圏の港都として神戸が飛躍すると思うんですよ。

あの美しい、表六甲をげざることは賛成できませんね。

神戸にない文化施設

神戸礼讃に終始しましたが、文化都市といわれる神戸に、文化施設があまりにもなき過ぎますね。美術館にしても、もつといいものがあつて当然だと思いますよ。公会堂もないというのは無闇すぎるようですね……。一番神戸らしい雰囲気をもつていてる海岸通りをもつと、整理してトラックなどの通過車は避けて、神戸の散歩道にしてはどうだろうね。こういった文化都市として必要な、文化・観光への配慮がほしいと思いますよ。

特に、神戸は、国際的な港都なんですからね……。外人の殆んどの人が日本での第一歩を踏むところなんですから、折角のいいところを、もつと効果的に印象づける方がいいでしょう。また神戸の花隈といえれば、いい意味で社交機關なんです。その花隈が低調過ぎるというのはあまり感心しませんよ。神戸繁栄のバロメーターのようなんのなんですか、もつと大切にしたいと思いますよ。

（文責・小泉康夫）

川崎電機製造株式会社副社長・元経済同友会代表幹事

虎

筆

の

肝

古林喜樂



年越しがすぎると、はつきり廿から寅へうつるのだという。正月早々は寅年というても、まだ牛のよだれが残っていて、二月三日までの生れの人は、丑年の方に入るのであるらしい。私はみずのえ寅の生れてあるから、いよいよ今月から当り年の本番に入るというわけである。

私は生れつきいさきかあまのじやくみたいなところがあるのかどうかは知らないけれども、年賀状も通り一べんのものは、どうもビンと来ない。そこで例年のことながら、今年も少しは新機軸を出してみよう試みた。狂歌を添えたことは毎度のことながら、謹賀新年ではあまりにも月並みがあるので、謹賀壬寅年として、来年にお古(ある)を使うようなミミッちいことができないようにした。年末の十二月にさし出しておきながら、元旦の日付けにするのでは、真っ赤なうそのかんばちひやけのなすびになる。正月早々嘘をつくようなことは縁起でもあるめエというわけで、正直に「元旦以後のある日」とした。元旦には私は年賀状を絶対に書かないし、又千客万来で書くにもそのいとまがないからである。

さて年賀状の狂歌というのは、

寅年が寅年生れに戻りけり

なほ走りみん千里の藪を

(意気けんこう如斯)

還暦と言はれる気持ち湧きもせで

自然年令ひとり先きゆく

(肉体年令と精神年令とは、

まア一だ、まア一だ)

虎（トラ）と虎（トラ）！虎は虎でも、？の虎！

さて、私が寅年生れであるというので、ある日電話がかかって来た。「先生これからお祝いに、虎のキモをもつてゆきますヨ」。家内がたまげて「ちよいとあんた、虎の肝をもつてくるのだってさこんなのもらったってどう料理するのよ」という。

姐ちゃんがそれを聞いて笑いこけながら、又言うのには「たださえあんなに元気なのに、この上虎の肝を召しあがったら、どんなことになるでしよう」と。

ところで私もさして思ひにけりなーそはインドの虎の肝か、泰
国の虎の肝かと、想像をたくましくしながら手ぐすね引いて待つ
いると、二重の風呂敷に包んだ木箱入りのしろ物が、うやうやしく
とどけられて来た。なるほど熱帯地方からはるばる運んでくるので
あるから、せともの器に入れ、木箱のなかに密閉し、その上包装
も幾重にも念を入れたのである。

これはこれはとおもむろに聞いてみると、こはいかに！

これが虎の肝かや！ということであったのであるが、虎の肝という
たのは、これこそ愚妻と言われても仕方があるまいと思うが、実は
家内が電話を聞きまちがえたのであった。

虎のキモはキモでも、小倉千尋丹念作の虎の「おキモの」であつ
た。呵々。

（神戸大学教授）

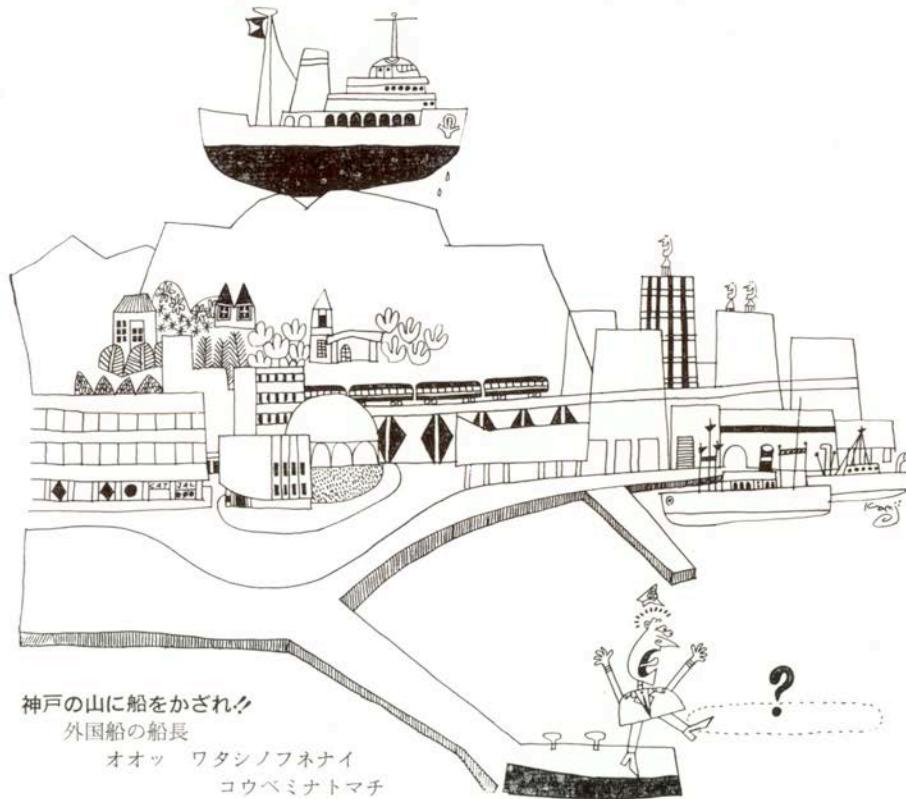


神戸だからえがく夢

文・藤
え・佐
々木本

No. 4
侃 義

司 一



神戸の山に船をかざれ♪

外国船の船長

オオッ ワタシノフネナイ
コウベミナトマチ
ワタシオドロイタ……

モニユメントがほしい

戦前の日本には偉人の銅像がたくさんあつた。それが戦争中の供出で姿を消し、戦後はこれに変わって△平和の像▽とか△伸びゆく子供▽とかのモニュメント(記念碑、像、塔、建造物)が脚光を浴びている。東京はさすがに多くのいすれもかななかの出来ばえ。上京するたびに私の眼もたのしませてくれる。そこで神戸のそれが、須磨浦公園の△みどりの塔▽、海岸通り中央堤前△泉の塔▽は美しく、須磨海浜公園にはこれまた豪華な噴水と人魚像とが巧みに配されている。しかし残念なことにいすれも行楽地に多く、ターミナルやビジネス・センターはない。東京では駅前かその付近にあるのだがここではそうした場所が案外に利用されていない。例えば国鉄三宮駅浜側一帯と市電道路をへだてた西側、加納町三丁目の三角地帯、国鉄神戸駅前、新開地バス・ターミナルなどがすぐ思い浮かぶ。

ついこの間、中山手六丁目山側にエタイの知れない飾りつけが完成した。市電のなか、バスのなかから見ると、それはまるで巨大な火星人のようで、ここを通りすぎたびに、車内から何度も首をかしげた作品であった。抽象や非形象の絵や彫刻にも数多く接し、自分でも幾つかを愛蔵して理解力をもつていているつもりで

いたが、これは美しいと思えなかつた。ある休日にこの辺りへ行つたとき、ここに立ちどまつてゆつくり観察してみると、驚いたことに、これは高い土台の上で丸く輪になり、手をつなぎあつた三人の子供だったのである。

私はこの像の作者をよく知つており、神戸ではまさに第一人者だと尊敬しているが、これだけはどうもいたときかねる。抽象化された作品は、見るものにさまざまなもの解釈をさせる自由をすらもつてゐるのだが、これは誰に聞いても火星人だといった。そのイメージは船輪になって手をつなぐ子供たちとはおよそ正反対のものだからであるしかも具合の悪いことにこの場所は、ゆっくり立ちどまつて見上げるような場所がらではない。ほとんどが朝夕の忙しいラッシュ時に満員の市電やバスに揺られながらアツという間に見て通る処なんである。将来、この道路が高速路線になって、自家用車が滑れるようになります。それでもなればなること。中に灯をともして夜間の効果も考えられているが、灯が入ると余計に蛸道に見える。

一方、戦前からある県庁前三角公園のとっぽしにある石づくりの半円形ベンチは灯火設備など一向に改修されず、左右に並んだ小さな下にはいつもビラがベタベタ貼られている。あすまや風の休憩所も天井が落ち、軒はくずれてとても入れたものではない。ここなど、まわりの風景はまたとない美しいものだ。

徳山市では東京の彫刻家グループの作品数十点を受け入れて野外展をひらき、そのあと市内の各所へ設置すると聞いたが、ぜひ一度見に行きたいと考えている。

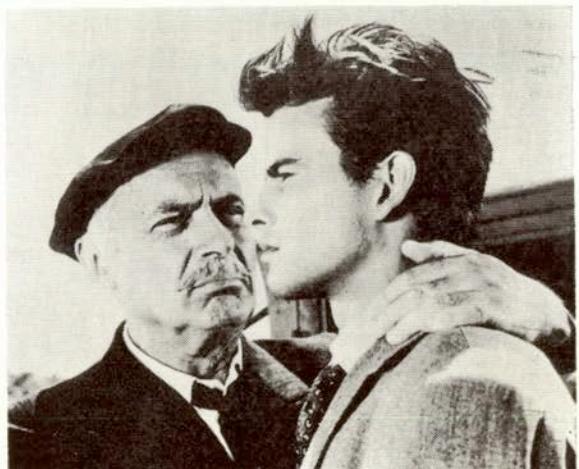
神戸でもこうした方法で一挙にたくさんのモニュメントを手に入れたらどうだろうか。徳山のマネをするのがいやなら、全国から作品を公募するのも一案だろう。

しかし私はそんなアイデアとはと離れて、これは誰に聞いても火星人だといった。そのイメージは船輪になって手をつなぐ子供たちとはおよそ正反対のものだからであるしかも具合の悪いことにこの場所は、ゆっくり立ちどまつて見上げるような場所がらではない。ほとんどが朝夕の忙しいラッシュ時に満員の市電やバスに揺られながらアツという間に見て通る処なんである。将来、この道路が高速路線にならざることになり、市内の交通網は大きくその地図を変えようとしている。モスクワの地下鉄とまではいかなくとも、せめて、東京地下鉄が地上へ出た口へ取りつけていく菊池一雄の△女の首▽に劣らないくらいのモニュメントを配置してもらいたい。

とにかく神戸はエキゾチックな街だということと、市民はそういうおのれをも望んでることを行政担当者は知つてほしいものだ。市民もこれについて協力を惜しまないだろう。

「ファニー」

川上了子 映画評



(写真はシャルル・ボワイエとホルト・ブッホルツ)

眞実の愛情は老人の犠牲の上に成り立つといった、人道主義的な内容で、全編これ心温まる人間の善意にみちあふれた映画。愛すればこそ別れよう……と心中もなく、愛人のマリウスを海に送り出したばかりに、私生児を宿し不幸のどん底に打ちひしがれてしまつた、魚市の評判娘「ファンニー」が、突然奇徳な金持ちの老人「パニース」に想いを寄せられ、その妻に納まるといったストーリーだといえ、気の早いご仁はきっとと「ああそれなら山本嘉次郎オヤジがメガホンをとり、高峰秀子、宇野重吉らが出演した、それ古い映画『愛の戯れ』の焼き直しちゃないか」と、おっしゃるか

も知れないが、実はその逆で、この映画の原作はフランス近代劇の古典、マルセル・パニヨルの戯曲で「ファンニー」「マリウス」「セザール」の三部からなつており、フランスではもともと愛されてゐるお芝居で、これをアメリカで映画化したという次第。

もつともこのアメリカ映画セリフこそアメリカ語だが、出演者はファンニーに「パリのアメリカ人」「足ながおじさん」「恋の手ほどき」といったミュージカル物で売り出したレスリー・キャロン、ご奇徳な金持ちの老人パニースにはモーリス・シュバリエ、若者マリウスの父セザールにはシャルル・ボワイエ、そして三木のり平そつ

くりの三枚目で、少々お脳の弱そな提督と呼ばれる男にレイモン・ビュシェールといった工合にフランス映画界の芸達者連を、また海にあこがれる若者マリウスには欧洲のジェームス・ディンといわれるドイツ人のホルスト・ブッホルツと欧洲系の俳優を揃え、アメリカ映画ながら中味はヨーロッパ的ムードをふんだんにたたよわせている。圧巻はファンニーに突然金持の老人パニースが結婚を申し込んだ事が、若いマリウスの愛情の火に油をブッかけた結果となりマリウス、ファンニーの若い恋人たちは燃えあがり、波止場での月夜の逢引きから、ファンニーの家の一夜のやりえと移つてゆくあたりムードの盛り上げは實に見事で、ジョシュア・ローガンの演出も一andanと冴え彼の名作「ピクニック」を数段上まるわる出来。そしてマリウスはファンニーの心ならずもついた嘘に傷心の身を大洋へと乗り出してゆく……ドラマとしてもグンと盛り上がるクライマックスアベックの観客席から思わずタメ息がもれるというわけ。

残念ながら後半は少々だれ、西洋の人情話に終つてガッカリの巻きだが、全編を通じて流れる人間の善意。そして舞台のフランスの港街マルセイユはいわすと知れたわが神戸とは姉妹都市の間柄。シャトー・ディフやノートルダム・デ・ラ・ガルトなど美しい風光を存分に楽しませてくれた。

真珠を愛する人は
 真珠の美しさを
 もつた人
 選ぶ人
 タサキの真珠を
 それは
 心から真珠を
 愛す人！

神戸・三宮駅前 新聞会館内
田崎真珠店
 TEL (22) 5646

DIAMOND

belgium
 hongkong
 india
 caillou
 australia
 mexico

ダイヤ
 メキシコオパール
 オパール
 猫目石スターサファイア
 エメラルド・ルビー・サファイア
 ヒスイ

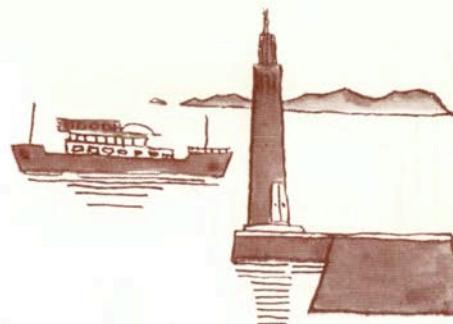
世界の
 宝石を
 結集した
タジマ

神戸・元町2丁目
 TEL ③ 0387・2552

FUGETSUDO

港の香り・神戸の味覚

- ゴーフル
- マロングラッセ
- コウベビアード
- フランス煎餅



創業 明治三十年



風月堂

神戸・元町三 TEL. 神戸 ③ 695・696



金 柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 ④ 0693
大阪・高麗橋二丁目 ②3 2106



ル フ ラ ン

ルフラン、ルフランと繰り返えしているうちに、開店六周年を迎えた。二回の改装で店の雰囲気は大きく変わったが、ママだけは若い。「メトロ」「神戸クラブ」に始まる十年選手の風格は、身についているけれど…。

いまや五尺三寸五分、十六貫と山本富士子ばかりだが、むかしから黒がいちばん似合う人だった。一本立ちになつたころは、キム・ノヴァクそっくりだった。それに声がかわいい。「ハイ」「ハイ」の声も電話で聞けば、まるで女学生が先生に答えているようだ。

もちろん、現実はそんなに甘くはない。Aクラス店のマダム業は中企業の経営者の資格が要求されるわけで、頭も切れるし、腕も達者でなければならない。文句なしに合格点が与えられる彼女だが、奈良出身の純情さはちょっと残っているのではないかろうか。望みたいのはバカになること。

この店、東宝スターや野球選手も顔を見せるか、いまや神戸財界中堅の果となつた。ホステスも変化に富んでいるうえ、酒好きのTバーテンも魅力、私生活でもすつきりしたことした。生田川のホープらしい活躍に期待する(ナン)

「生田新道東、地蔵小路北へ入る

レリーフ

納 健 君



花時計

文化の根

松井高男



京都市というところは、古い文化遺産を守る一方、新しい面でもなかなか前向きで積極的である。外人指揮者を迎えてオーケストラをつくったり、立派なホールをもつ京都会館を建てたりしている。オーケストラは数多くの舞台芸術の中軸となるものだし、ホールはそうした芸術活動が、直接市民と結びつく場所だ。いずれも市民の精神生活を豊かにしていくための根幹となることである。これで京都を素通りしていた内外一流アーチストや団体を、大手をひきまけて迎えることができ、同時にさまざまの催し事が行われ、いわば芸術文化的な生産が、昨今目にさみえて活発になってきた。むろん市会でも大いに異論も出、反対もされたことだろう。だが、それを

一九六二年の新年早々、納君は神戸で個展を開いた。場所が喫茶店で、列んだ作品も淡彩デッサンだったのが、彫刻家としての作品発表にしては物足らなかつたが、なんだか、個展を申し入れに行つた画廊から一年間スケジュールがビッシリで割り込む余地がありません、と断られたのがカッときて、そんなら喫茶店ででも年明けすぐに列べてシングのある所を見せてやるーということになつての仕儀らしい。

納君は、なかなか負けずぎらい一面があり、そのくやる気が、ハタチ前後で美術団体二紀会の同人に推されるというみごとな手腕に結実した。同会で最年少の同人ということで注目もされ期待もされたが、今ではそこをも飛び出して『場』というグループを

若い仲間と結成し、大阪を発表の中心にして活躍に制作している。大阪が中心になるのは仲間が関西のあちこちにバラバラ居住しておられ、作品の反響の最も多いのが大阪だから、ということであつて、彼自身は純粹の『神戸っ子』だ。

納君の作品は半抽象。発想は人物とか動物だとか、具体的な『物』にあるらしいが、それを思い切ってデフォルメ（変形）し、極端にいえば、何が何だかわからぬような作品に仕上げている。もちろん、この『わからぬ』といふ何をモチーフ（題材）にしたか――ということであつて、彼の作品を鑑賞する上には、いつこう障害にもならぬことである。（伊藤誠）

2月26日～3月5日ナショナルギャラリーにて個展を開催

押し切つてやつただけの成果は分あつた。これから市民生活でいつそう大きな比重を占めていくに違ないこれらの面に対する行政上の積極的なありが方が、私たちは非常に貴重なものに思われるさきほど神戸労音が、戦前にあつた公会堂基金のゆくえなどに、これはおそらく古い問題をほじくいまたがれの公会堂基金のゆくえなどに、市長に公開質問状を出したが、これがおそらく古い問題をほじくいまたがれの公会堂基金のゆくえなどに、つまりは、公会堂設立についてだ。これの声を軽く考えてはなるまい。

（神戸新聞学芸部長）



一店紹介

御木本真珠店

神戸国際会館 1階



(外人客が多く国際色豊かなミキモト)

国際会館の南玄関を入れると、左側に、御木本真珠の神戸店がある。明るく洋風にデザインされたウインドーに、日本の宝石と謳われてゐる真珠がズラリと並び、外人客が洒落たボーズで品定めをしている。お店をあづかっていられる、佐々木登氏は、若くて颯爽としていて、民間のトップ外交官という感じ、「現在、若い五人のスタッフで頑張っています」と歎切のい関東弁で話される。

神戸は業界の中心地
生産地は三重・鳥羽のほか九州

こと阪神間の上流家庭の皆様にも馴染んでいただいています。

アクセサリーに真珠を

珠の業界の総てが集まっています。御木本は戦前には元町にお店があり、阪神間の人々に非常に人気がありました。その後は少し遅れましたが、本格的には、国際会館の建設と同時にこの店が本店直営の店としてデビューさせていたきました。春と秋の観光船シリーズには重点的に海外のお客様に日本のお客様が45%というデーターが出ています。何といっても真珠は日本の宝石なのですから、もとと日本のお客様に真珠の美しさを認識していただきたい、ご愛用願いたいのですね。

最近は積極的に外商も行っていますし、BGなどの間に非常に人気があります。それでも外人客55%日本のお客様が45%というデーターが出ています。何といっても真珠は日本の宝石なのですから、もとと日本のお客様に真珠の美しさを認識していただきたい、ご愛用願いたいのですね。

ヤマハオルガン

今までになかった音です
カタチです

- 1本脚のスタイリスト
- 音が豊かになりました
- 音の変化が楽しめます



神戸もとまち
日本楽器

元町通2丁目 TEL (3) 1631-2

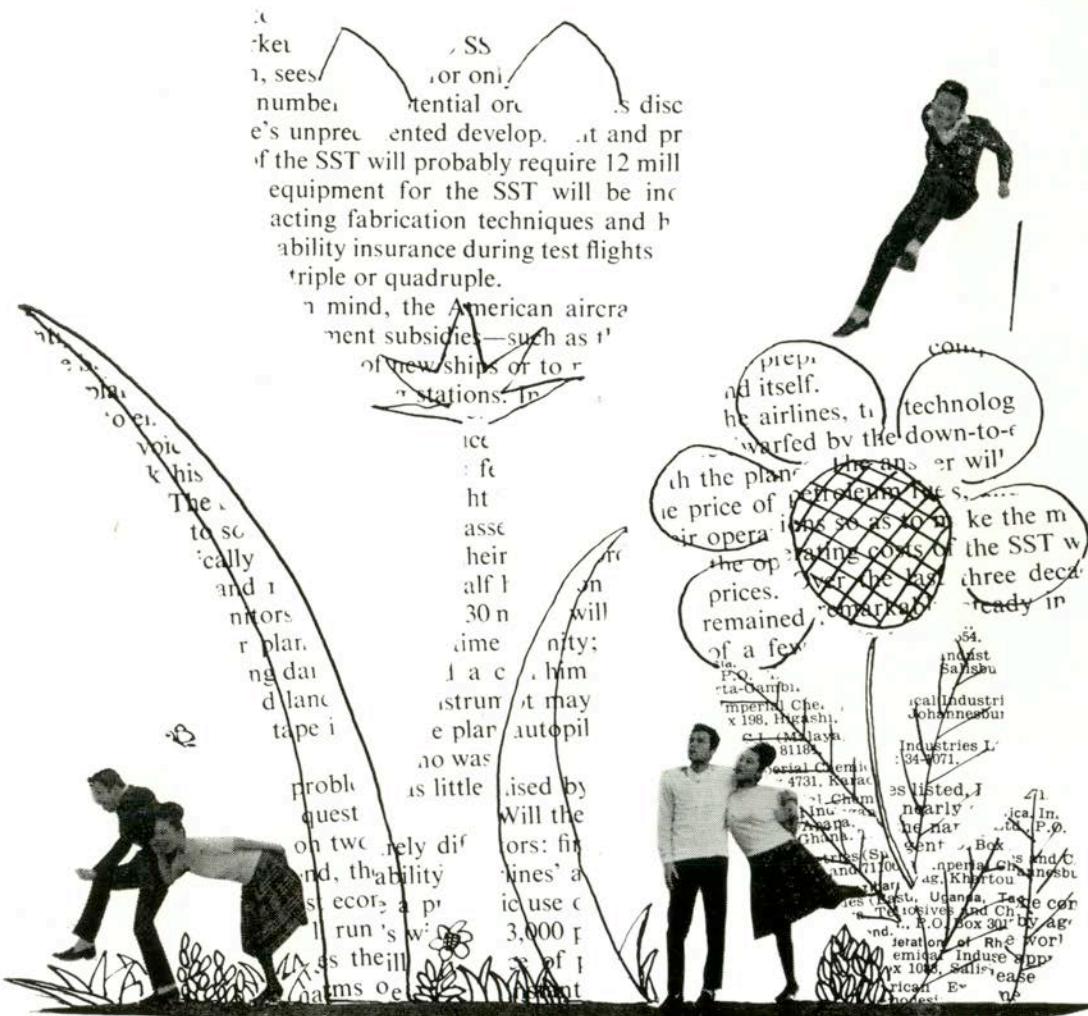
舶來婦人服地卸小売
高級婦人服地

地マルゼン

マルゼン

神戸市生田区三宮町1丁目(生田筋)
TEL. (3) 0212・5454

Spring Has Come !!



春だ！

リズムだ

躍れ
かけれ

とんで

はねて

春を

うたおう

商品の写真右から／水玉
ウールネップ服地・トーリ
レイ洋装店／ネックレス
皮の花、木彫り鏡・イクシマヤ／ナショナル、ウ
オッヂ・トランジスター・元町電機／フランス製ウ
ルプリントレース、レオナルド・ファッション・エ
スター・ニュートン／白地衿に赤と黒の線の入った
ボロシャツ・千秋堂／春のストライプ模様ワイシャツ・フナキヤ／黄と黒の大膽なデザインのシルクブラウス地・トーレイ洋装店／イタリヤ製モジリアーニの女の描いてあるオペラバック・エスター・ニュートン／ファンシーベルト春のネクタイ・サカエ／ジャーマン製黒い靴・神戸屋



輸入婦人服地雜貨の店

エヌスター
ニユートン
トア・ロード ⑨一八一八

アクセサリーと工芸品

イクシマヤ
モード
⑩一四一五一六

洋服のセレクト

トーレイ洋装店

新聞会館1階 ⑨二八一八
男子洋品店

予 祀 閣

元町四 (4) 六九五九

男子洋品の店

フナキヤ

元町三 (3) 三六一七

紳士洋品の店

サ カ エ

元町二 (3) 五一二二

男子洋品の店

神 戸 屋

元町一 (3) 二五八九

あらゆる電器製品の店

元町電機

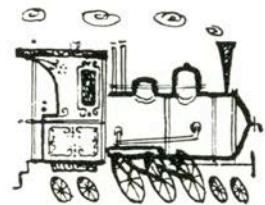
元町六 (4) 三七〇一五



オシャレをたのしむ帽子の店

マキシン

トア・ロード TEL③6711~3



PELO



MADE IN WEST GERMANY

ネクタイの
元町バザー
元町 1 ③1401